

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和5年度活動計画】

団体名	北九州埠頭 株式会社
-----	------------

所管課	港湾空港局 港営課
-----	-----------

団体に対するミッション
<p>①ガントリークレーン等の港湾施設のメンテナンス業務について、ノウハウの蓄積や人材の育成を行いながら、市に替わって実務を担うことで、港湾施設の24時間365日の安定稼働を実現し、信頼性の高い港湾運営に貢献する。</p> <p>②第3セクターの強みを活かし、埠頭運営の効率化に向けて、中心的な役割(人材育成など)を担っていく。</p> <p>③これまで培ってきた高度なメンテナンス技術を活かし、地場企業の不得意分野に対する技術協力を推進し、地域産業の振興、競争力強化に貢献する。</p>

行財政改革大綱における見直し内容
<p>業務の徹底した効率化、コスト削減を図るとともに、これまでの業務遂行実績や技術力による優位性を生かした競争力の強化を図る。</p> <p>また、自主事業の収益拡大に向けて、これまで培った高い技術力やノウハウを最大限活かしながら、大型荷役機械等の保守点検業務の受注に向けた営業活動やその他PR活動等に取り組む。</p>

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	平成30年度に導入された門司地区港湾施設の指定管理実績を踏まえ、令和5年度からは全地区に指定管理の範囲が広がり、利用者サービスの向上などこれまで以上に高い信頼性が求められる。老朽化する港湾施設に対応するため、更なる技術力の向上を図り、いつでも万全な状態で使用できるよう維持管理体制強化を目指す。
-------------	---

主な成果指標	年度ごとの目標及び実績 (太枠は最終目標年度)							
	R1	R2	R3	R4	R5		R6	R7
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
施設の稼働停止回数(ガントリークレーン)	平均9回/基	平均10回/基	平均11回/基	平均10回/基以内	平均12回/基以内	平均10回/基	平均12回/基以内	
施設の稼働停止回数(その他施設)	平均年1回/施設	平均年1回/施設	平均1回/施設	平均年1回/施設	平均年2回/施設以内	平均1回/施設	平均年2回/施設以内	
即応対応時間	平均67分	平均68分	平均55分	平均38分	平均2時間以内	平均74分	平均2時間以内	
自主事業全体の売上額	-	-	8,906万円	8,982万円				
自主事業全体の収益性(営業利益率)			4.5%	9.7%	5.0%	32.1%	5.0%	

ミッションの遂行状況の評価(令和5年度)

<p>団体における評価</p> <p>ガントリークレーン及びその他の港湾施設の稼働停止回数、対応時間については、目標を達成した。自主事業については、オーシャントランス所有設備の点検業務や下関市ガントリークレーンの部品購入契約などを受注したうえ、不採算部門であった新門司マリーナ事業を譲渡したことで営業利益率が大幅に向上する結果となった。</p>	<p>市の評価</p> <p>ガントリークレーン等の港湾施設のメンテナンス業務について、稼働停止回数や即応対応時間において目標を上回る実績を上げている。その結果、当団体へのミッションである24時間365日の安定した稼働を実現しており、信頼性の高い港湾運営に貢献していると評価している。</p> <p>また、自主事業の収益性についても目標を上回り、経営の安定化に寄与した。</p>
<p>今後の課題及び見直し内容(案)</p>	<p>団体への改善指導内容(案)</p>

その他~「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	-
<p>自主事業の収益拡大に向けて、下関市のガントリークレーン保守点検業務や部品購入契約、オーシャントランスの人道橋設備点検業務などを受注することができた。2022年12月に建設業(機械器具設置工事業、電気工事業、塗装工事業)の許可を受けたため、今後公共工事やメーカーからの受注が可能となり、これまで受注できなかった工事や得意分野への参入など、業務拡大に向けて引き続き営業活動やPR活動を行う。</p>	

ミッションに基づく具体的取組み（令和5年度）										
1	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）					
	<p>港湾施設を必要な時にいつでも万全な状態で利用できるよう、24時間365日の安定稼働に向けて、故障による施設の稼働停止回数の低減を目指す。</p>				<p>①主要施設であるガントリークレーンの巡回点検の定期実施を継続し、メンテナンスの品質向上に積極的に取り組む。 ②フェリー埠頭の可動橋、西海岸可動橋、トンネル設備等の巡回点検の定期実施を継続し、メンテナンスの品質向上に積極的に取り組む。 ③主要施設であるガントリークレーンについて、主要部品単位の余寿命管理を行い、故障率の高い部品については実施可能な範囲で予防保全管理を行う。</p>					
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	施設の稼働停止回数 ※事故・操作ミスに起因するものは除く	(ガントリークレーン)1基あたり平均11回 (その他施設)1施設あたり平均1回	(ガントリークレーン)1基あたり平均10回 (その他施設)1施設あたり平均1回	(ガントリークレーン)1基あたり平均12回(その他施設)1施設あたり平均2回	(ガントリークレーン)1基あたり平均10回 (その他施設)1施設あたり平均1回	① 巡回点検の実施回数	1基あたり平均64回	1基あたり平均年64回	1基あたり平均年48回	1基あたり平均年65回
					② 巡回点検の実施回数	1施設あたり平均年59回	1施設あたり平均年59回	1施設あたり平均年48回	1施設あたり平均年60回	
					③ 予防保全整備の回数	年4回	年5回	年3回以上	年5回	
2	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）					
	<p>航路の定時性を確保し、北九州港の信頼性を高めるため、故障等の発生時における即応対応時間（港湾管理者から連絡を受けて復旧完了通知を行うまでの時間）の短縮を目指す。</p>				<p>①より高度なメンテナンス体制を構築するため、OJTはもとより、専門機関が行う講習会等に参加し、最新のノウハウの習得と対応能力の強化を図る。 ②知識や経験により相違する技術員の対応能力を平準化するため、社内にて技術勉強会を開催し、即応体制の充実・強化を図る。</p>					
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	即応対応時間 ※機上での待機時間含む	1回あたり平均55分	1回あたり平均38分	1回あたり平均2時間以内	1回あたり平均74分	① 各種講習会等への参加人数	年21人	年25人	年10人以上	年11人
					② 技術勉強会の実施回数	年22回	年21回	年10回以上	年19回	
3	目的（目指す状態）				活動計画（どうやって目的を達成するか）					
	<p>自主事業の収益拡大に向けて、不採算部門の縮小・撤退など既存事業の見直しとともに、他港のガントリークレーン点検業務の受注や協力会社との連携による補修業務の受注など新規事業拡大により、自主事業全体の収益性向上を目指す。</p>				<p>各施設の運営業務や大型荷役機械の保守点検業などについて、委託会社や協力会社と綿密に連携を図り、売上向上に向けた取り組みを行う。</p>					
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	自主事業全体の収益性（営業利益率）	8,906万円	8,982万円	5.0%	32.1%	協議活動の実施回数	月1回	月1回	月1回以上	月1回